



## ～令和5年度農業者セミナーの振り返り～

### 第1回農業者セミナー

「カンキツの剪定」

父島 2023年12月10日（日）

亜熱帯農業センター圃場

母島 2023年12月12日（火）

営農研修所圃場

### 第2回農業者セミナー

「農薬のキホンと苗づくり」

父島 2023年12月19日（火）

亜熱帯農業センター本館会議室

母島 2023年12月18日（月）

小笠原アイランド農協

母島支店会議室

~~~~~

第一回農業者セミナーでは、島しょ農林水産総合センター三宅事業所の池田所長を招き、カンキツ剪定を実演しました。露地栽培の菊池レモン成木を用い、3本の主枝を決め、バランスよく剪定しました。主に切る枝は、木の内側に向かって伸びる内向枝や勢いの強い徒長枝です。剪定量の目安は除葉率が全体の3割程度以内で、横から見て樹形が三角形になるようにして受光体勢を良くします。春枝、夏枝を適期に摘心することで花芽がしやすい20cmから40cm位の短くて新しい枝を確保できます。また、樹の大きさに合わせた計画的な間伐が必要であることが説明されました。参加者は父島で6人、母島で9人でし

た。参加者からは活発に質問があり、最後には実際に剪定を体験してもらいました。

第2回農業者セミナーでは、農業振興事務所の西村統括課長代理を招き、農薬のキホンと苗づくりの講義をしました。農薬の定義や安全性、適正使用、生産管理簿への記入方法など、基本的な説明に加え、農薬の使用履歴は苗の段階から必要であることや、散布液量、植物成長調節剤などの記入漏れが多いことなど、具体的な事例を挙げながら話が進められました。苗づくりについては、トマトを例に育苗の利点や注意点などが説明されました。参加者は父島で16人、母島で5人でした。今年度も引き続きセミナーを開催する予定です。

＜研究員：蜷木＞



写真 カンキツの剪定講習会の様子



写真 苗づくりの講義の様子

## ～令和5年度試験成績概要～

### 1. パッションフルーツ新たな生産体系の確立

#### ●おがさわら丸ドック期間を除けたパッションフルーツ年2回収穫の可能性

8月末に定植した場合、3月中旬に切り戻しを行えば、ドック期間に重なることなく2回目の収穫を終えることができると考えられました。（村田）

#### ●葉を利用した着色不良軽減技術の検討

パッションフルーツの平棚栽培において、棚面からはみ出た不要枝のみを除去する半放任的栽培により、果実の着色不良は軽減できず、カイガラムシ類などの害虫による障害果が増加する可能性があると考えられました。（村田）

### 2. 農業センター育成カンキツ品種の栽培技術の確立

#### ●「菊池レモン」施設栽培における春～秋期の被覆資材除去の検討（定植4年目）

定植4年目の「菊池レモン」の施設栽培では、春～秋期に被覆資材を除去しても、通年被覆した場合と比べて開花期・収穫期は変わりませんでした。（宮地）

### 3. その他特産熱帯果樹の生産技術開発

#### ●レイシ品種および生果と冷蔵果の食味と保存性

レイシの生果は冷蔵果よりも果皮色、食感が優れました。常温保存では香りが優れましたが、3週間程度で果皮が一部褐変しました。冷蔵では果皮色の変化が少ないことがわかりました。（蜷木）

### 4. 駆除外来樹の有効活用

#### ●外来樹チップ堆肥の障害性評価

外来樹チップに下水スラッジを加えて作成した堆肥において、発芽障害はみられませんでした。（蜷木）

### 5. 遺伝資源の技術開発・保存・展示

#### ●オガサワラグワ培養苗の適正育苗土の検討

オガサワラグワの組織培養苗の育苗土に農セ用土（赤土：堆肥：パーライト＝5：2：1）を用いると、順化開始6カ月後の生存率がいずれの順化開始時期でも8割を超え、12月の開始で最も高くなりました。（蜷木）

### 6. アフリカマイマイ被害回避手法の検討

#### ●アフリカマイマイ誘引捕獲トラップの設置時期の検討

6月および9月に誘引捕獲トラップを設置すると、他の月に比べアフリカマイマイの捕獲数が多い傾向がありました。また、調査前3日間の合計降水量が10mm以上であった場合、アフリカマイマイの捕獲数が多くなりました。（遠藤）

### 7. 小笠原の環境に配慮した病害虫被害回避手法の検討

#### ●コーヒー苗における温水処理条件の検討

コーヒー苗は根を露出させた状態で根部を50℃で30分間の浸漬処理を行うと生育不良が認められました。52℃の温水を土付き苗にかけ流して鉢内温度を48℃まで上昇させた後、47℃で5分間の浸漬処理を行っても、コーヒー苗は健全に生育しました。（遠藤）

### ●父島のナス科植物に寄生する

#### Aleurotrachelus trachoides の薬剤効果試験

父島のナス科植物に寄生するコナジラミ類は *Aleurotrachelus trachoides* が主要種でした。その若齢幼虫に対して補正死亡率が 90%を超えた薬剤はアセタミプリド水溶剤、脂肪酸グリセリド乳剤などでした。（遠藤）



写真 誘引捕獲トラップでのアフリカマイマイ捕獲の様子

### 8. 野菜・果樹・花き・切葉類の生産性向上

#### ●平棚仕立てパッションフルーツにおける最適な主枝数の検討

パッションフルーツの電照施設平棚栽培では、主枝2本仕立てにすると、主枝4本仕立てにした場合に比べ、開花と収穫が緩やかに進み、作業労力が分散されました。また、総果数は同等でしたが、一果重は主枝2本仕立ての方が重くなりました。（小野寺）

#### ●「菊池レモン」輸送時の温湿度、衝撃値および着色の推移

小笠原の通常収穫期に、常温便でレモンを輸送すると黄化によって品質が低下しました。一方で、冷蔵便でレモンを輸送すると黄化はみられませんでした。（小野寺）

#### ●ミニトマトの有望品種の特性把握

慣行品種の「甘っこ」と供試2品種の特性を比較したところ、可販果率や裂果率では「甘っこ」より優れた品種もみられましたが、収量および食味は「甘っこ」が最も優れていました。（小野寺）

#### ◎土壌診断実施のお知らせ

効率の良い土作りのため、土の定期診断を受けましょう。野菜では次作の畑の準備をする前、果樹では収穫が終わって施肥をする前がチャンスです。

茶碗一杯程度の土を採り、ゴミやホコリ等を取り除き、日陰でよく乾かして、目合い5mm程度のフルイを通して、紙封筒（提出場所で配布）に入れて、お名前、連絡先、畑の場所等を記入して下記の期限までに提出して下さい。

**☆提出先** 父島は農協父島支店、母島は農協母島支店です。

農業センターや営農研修所では受け付けておりませんのでご注意ください。

|     | 土壌試料提出期間           | 診断結果のお知らせ |
|-----|--------------------|-----------|
| 第1回 | 5月7日（火）～5月17日（金）   | 6月中旬      |
| 第2回 | 7月1日（月）～7月12日（金）   | 7月下旬      |
| 第3回 | 11月25日（月）～12月6日（金） | 12月下旬     |

## ～ 着任職員の紹介 ～



さ さ き めぐみ  
佐々木 愛 研究員

父島の亜熱帯農業センターで病虫害担当になりました佐々木 愛（ささき めぐみ）です。昨年度までは中央農業改良普及センター（現北多摩農業改良普及センター）で、東大和市、武蔵村山市、国立市を3年間、東久留米市と清瀬市を1年間担当しており、野菜全般とナシなどの果樹を指導してきました。家族と共に赴任して参りました。小笠原の農業生産に貢献できるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



な お い たつき  
直井 樹 研究員

この春より、母島の営農研修所へ勤務することになりました直井 樹（なおい たつき）です。昨年度までは南多摩農業改良普及センターで、日野市と稲城市を担当しており、ナシやブドウ、ブルーベリーをはじめとする果樹の指導を多く行ってきました。初めての島生活で慣れないこともたくさんありますが、小笠原農業の持続的な発展に寄与できるよう、尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

### 担当の紹介

令和6年度の農業センターの分担が決まりましたのでお知らせします。産業課長の中越が所長事務取扱となります。宮地は所の運営全般およびカンキツ類を担当します。蜷木は研究を統括し、自生種とマンゴー・レイシを担当します。佐々木は病虫害担当および当ニュースの編集も担当します。村田はパッションフルーツ担当となります。営農研修所については、直井はトマトを担当、北山は普及指導担当となります。ご質問やご要望は各担当者が承りますのでよろしくお願いいたします。

### 帰任職員

令和6年4月1日付けで研究員の遠藤は北多摩農業改良普及センター（小平市）へ異動となりました。また、営農研修所の小野寺は東京都農林水産振興財団東京農業アカデミー八王子研修農場（八王子市）へ異動となりました。長い間お世話になりました。